

昔むかし。狩人^{かりゆうど}たちが、山の中で、一頭のライオンをつかまえました。狩人たちは、綱^{つな}で、ライオンを木にしばっておいて、仲間^{なかま}のひとりに、町へくさりを取りに行かせました。それから、ほかの獲物^{えもの}を探しに行きました。

ライオンは、綱から逃れようと、ほえたり地面をひつかいたりしてあばれました。

この木の下に、ねずみの穴^{あな}がありました。ねずみは、何事^{あな}だろうと思って穴から出て来ました。ねずみは、ライオンに、

「そんなにほえたりして、いったいどうしたんです」とききました。ライオンは、

「とつと消え失^うせろ、目ざわりなやつめ」とほえました。ねずみは穴に引っこみました。

けれども、まもなく、ねずみは、また出て来ました。

「ほんとに、どうしたんです」

「いいから、消え失せろ」

ねずみは、穴に引っこみました。

しばらくすると、また、ねずみが出て来ました。

「いったいどうしたんです。ひよつとしたら、わたしでも、あなたのお役に立てませんか」

ライオンは、ますますたけりくるっていいました。

「おまえは、わしがどうなってるのか見えないのか。狩人どもがわしをここにしばりつけて、仲間のひとりがくさりを取りに行ったんだ。くさりで、わしを町じゅう引き回して、見世物^{みせもの}にする気なのだ。おまえなんかに、どうしてわしを助けられるのだ」

すると、ねずみはいいました。

「たったそれだけです。どうして、もつと早くいつてくれなかったんです。わたしがあなたを自由にしてあげましょう」

ねずみは、すぐにライオンの首に飛び上がりました。そして、あつというまに、綱をかじって切ってしまいました。

「さあ、逃げてください！」

ライオンは逃げ出しました。

ライオンは、おどろいていいました。

「わしのように強い者でも、ときには、ねずみに助けられることがあるのだな」
おしまい

村上郁再話

資料『世界の民話4 東欧Ⅰ』飯豊道男訳／ぎょうせい